



12 つくる責任
つかう責任



目標 12

持続可能な消費・生産形態を確実にする

家庭から出る**生ごみ**でコンポスト(堆肥)作り!

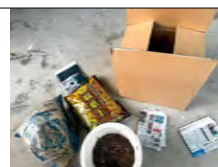
目標12「つくる責任 つかう責任」は、資源が有限である中、循環型社会の形成も目指し、消費者が環境や社会にやさしいものやサービスを選択するなどの**生活の改善**が求められています。その中でも、食料生産と食品ロスによる環境への影響が大きな課題にもなっています。

今回は、家庭で簡単にできる「食の循環」、生ごみを活用したコンポスト作りを紹介します。

完成した堆肥は家庭菜園などで活用して、また美味しい野菜が収穫できます。ぜひ挑戦してみてください!

準備するもの

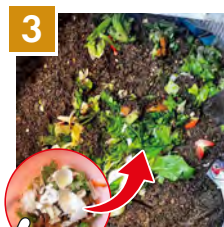
- ①新聞紙、②段ボール、③腐葉土300g、④土(畑や庭のものでOK!)300g、⑤米ぬか200g、⑥水(腐葉土と土と米ぬかに水を混ぜた時に軽く握ってホロっと崩れるくらいの水の量)、⑦育苗ポット2個(台座に使用)、⑧遮光ネット(100均にあるもので可)



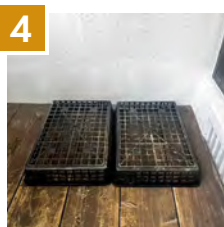
1 新聞紙を段ボールに敷き詰める。



2 腐葉土・土・米ぬか・水は最初に別の容器(バケツ)でかき混ぜておき、段ボールへ。



3 一回に入れる野菜などの食材は最大100gほど。それ以上は分解がおそくなり、匂いや失敗の原因となります。**特に注意が必要です。**



4 通気性確保のため、⑦を台座にします。



5 通気性・虫よけのため、⑧を被せ、コンポストを設置し、完成!

野菜などの余った食材は水分をなるべく飛ばしてから入れると、虫や腐敗がしにくくなります。
※目安 50%~60%水分を切る

POINT! 分解を早めるコツは、できるだけ細かくカットして入れること。

POINT! 1日に可能であれば2回は混ぜてあげる。



コンポストは、発酵分解が進むと温かくなり微生物が生きていることを感じます。より良いものをコンポストの中へ入れてあげたい思いが芽生え、野菜や余りものもより自然に近いもの・無添加や無農薬のものを入れることが多くなりました。

私は、それが普段の買い物の際におのずと自分自身・環境・社会にやさしい選択に繋がっていくと実感し、実践しています。

教えてくれた人: MATAYOSHI HARUKAさん(塩屋出身)

菜食カフェ「Kujaku Okinawa」のマネージャーを務める傍ら、自らの畑にて日々野菜や土と向き合っている。

生ごみ処理機購入奨励助成金について(村民課)

●生ごみ処理機とは

家庭用生ごみをかくはん又は過熱などの処理を行い、水分を除去するとともに、微生物の活動を活性化させ、生ごみの分解を促進することにより、その容量を減少または、堆肥化させることを目的とした電動機器をいう。(堆肥化型・減容化)(ディスポーザーは除く)

助成金: 処理機1基当り購入額の2分の1。ただし、助成限度額を3万円とする。

例 購入額50,000円(助成額25,000円) 購入額70,000円(助成額30,000円)

交付要件: 条件があります。詳細は村ホームページをご覧ください。



生ごみ処理機
奨励助成金
について



お問い合わせ: 村民課 生活環境係 ☎966-1205